
四月三十一日（予告）

多々良陽平

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四月三十一日（予告）

【Nコード】

N0951M

【作者名】

多々良陽平

【あらすじ】

四月三十一日、四方坂嗣朗は異形に出会った。
為す術もなく殺されるところを異能者 御堂貴緒によって救われる。

携帯電話が示す四月三十一日という異常。 嗣朗は貴緒からこの異常事態の事実を聞き、そこから脱出するため、異形に立ち向かっていく。

というお話の予告です。

僕がそれに遇ったのは中学三年の春、四月末日のことだった。

平々凡々な受験生でしかない僕が、異形が跋扈する領域に足を踏み入れてしまった。

そのことを認識した瞬間、僕は戦慄や恐怖を覚えていたが、それ以上に強い歓喜がそれらを塗りつぶしていった。

主役ではなかったということは少し惜しいが。この話を聞き終えた後に、主役は誰か？ と聞けば必ず、御堂貴緒だと答えるだろう。そして主役は、あの一連の出来事は嚆矢でしかないと言う。

ただ、そう彼は言うが、僕はどこからあの一連の出来事が始まったのかはつきりと断定することすら出来ない。僕が関わったのは、本当に終わりの方だったのかもれないし、実際は最初からなのかもしれない。彼ならばそれを断定できるだろうが、ついには明言することはなかった。その辺りは、この物語の主役では無い僕の脇役でしかない僕の限界なのだろう。今後、彼に非日常で関わっていけば、もしかすると分かるかもしれないが。

彼にとっては瑣末事の始まりでしかないが、名字くらいしか非凡なところが無い男の 非日常や非凡を強く渴望していた男の、もう一度非日常へと渡ろうとする日常への第一歩に起因するのだ。

だから僕は正直に話そうと思う。

脇役主観の物語なんて、聞いていてもつまらないかもしれない。細かい流れや事情を知らない僕は、語り手としては最悪なのかもしれない。

だからこれは物語ではなく決意表明だ。そういうことにしよう。もし、彼にもう一度会えた時の、いの一番組に、四月三十一日は楽しかった、と言ってやるための。

ただそれを言うただけの、長い長い決意表明なのだ。

(後書き)

開始時期は未定ですが、異界の英雄が落ち着いたらこれの投稿を始めていきたいと思います。これはあくまで僕が逃げ出さないようにするためのものなので、本編の投稿を始めたら取り下げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0951m/>

四月三十一日（予告）

2010年10月11日14時33分発行